

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

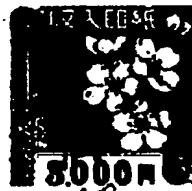
Defective images within this document are accurate representation of
The original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



(3,000円)

実用新案登録願

適

昭和53年4月21日

特許庁長官

殿

1. 考案の名称 角度測定及び加工の定規

2. 考案者

住所(居所) 埼玉県富士見市渡戸 3-11-41

氏名 上 守 人

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 354-□□

住所(居所) 埼玉県富士見市渡戸 3-11-41

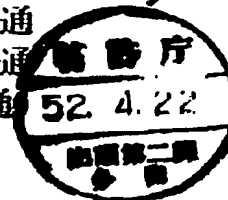
氏名(法人にあっては名称)
(及び代表者の氏名) 上 守 人



4. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 願書副本
- (4) (

- 1 通
- 1 通
- 1 通
- 通



方式審査 (長)

52 050677

明 細 書

1. 考案の名称

角度測定及び、加工の定規

2. 実用新案登録請求の範囲

定着辺と測角辺の交点を回動自在に取り付け、一方角度支持辺の両端間の任意の位置に接合点を設け、角度支持辺の両端間の距離を任意に伸縮自在にし及び固定手段を設け、定着辺と測角辺の任意の位置に角度支持辺の両端を回動自在にそれぞれ取り付けた角度測定及び加工の定規

3. 考案の詳細な説明

時代が進むにつれ世の中の目に写るあらゆるものが、それぞれの職場の人達の知恵により機能、デザイン等、大変な進歩をなし、街を歩いているといかにも楽しい。しかし、それらのすぐれた物を造るにも内面は技術面で大変な苦勞をしているのである。建築界でも例外でなく、色々な変つた形のデザインの仕事が多くなつた。施工者としても時間を永く費やしても凶面通りに施工しなければならない。特に化粧板を変形な角度の場所に施

工するとなると、熟練者でも形に合わせて施工するには永い時間を必要とする。従来は角度を写取する自由矩は有つたが定規の2辺の頂点を回動固定したものであつたので角度を写し取つても安定性がなく使用するに不便を感じていた。この自由矩はそのような欠点をなくし安定性のある自由矩にしようとするものである。

次にこの自由矩の構成を一例を用いて説明すると基準となる定着辺1と対辺の測角辺2の交点を蝶ネジ5で回動自在に取り付け、角度支持辺3—3'の中央に接点を設け、回動自在に蝶ネジ8で連結し、3の一端を2の適当な位置に回動自在に2の外辺から3がはみ出ぬように蝶ネジ6で取り付け、3'を1に5から6までの長さの寸法と同じ長さで1の外辺から3'がはみ出さぬように蝶ネジで9に回動自在に取り付ける。又、角度の固定は角度固定辺4に蝶ネジ8が移動可能な巾の溝7を設けたものを5に回動自在に取り付け又3—3'の交点の蝶ネジ8で溝7に取り付け固定する。使用法はまず角度を写し取る 目的の場所に1と2を密



着させると 1 と 2 の内角は 5 を中心に角度に応じて広がったり狭くなったりすると同時に 6 と 9 の距離は長くなったり短くなったりする。一方 8 の位置で折れるようになってる角度支持辺 3 - 3' は直線に近くなったり折れたりする。角度を固定するには 8 が移動しないようにしなければならない。その役割をするのが角度固定辺 4 で、4 は蝶ネジ 8 が移動可能な巾の溝 7 を設け一端を 5 で固定してあるので 8 を締め付けると角度が固定する。また自由矩自から角度を出す場合は 4 の溝 7 にそつて角度又は勾配等の目盛を付けておき、目的とする角度に 8 を合わせる。又 1 を板状にせず第 2 図のように 1 の断面を角状等断面に適当な厚さのものを使用すると加工材に丸みが有つても 1 が材料の辺に密着し安定するので電動溝切、電動丸鋸等使用加工用として使用出来る。

以上のようにすることにより 1 と 2 の外辺から支持板 3 - 3' がはみ出さずどんな場所でも使用可能となり用途の広い自由矩である。

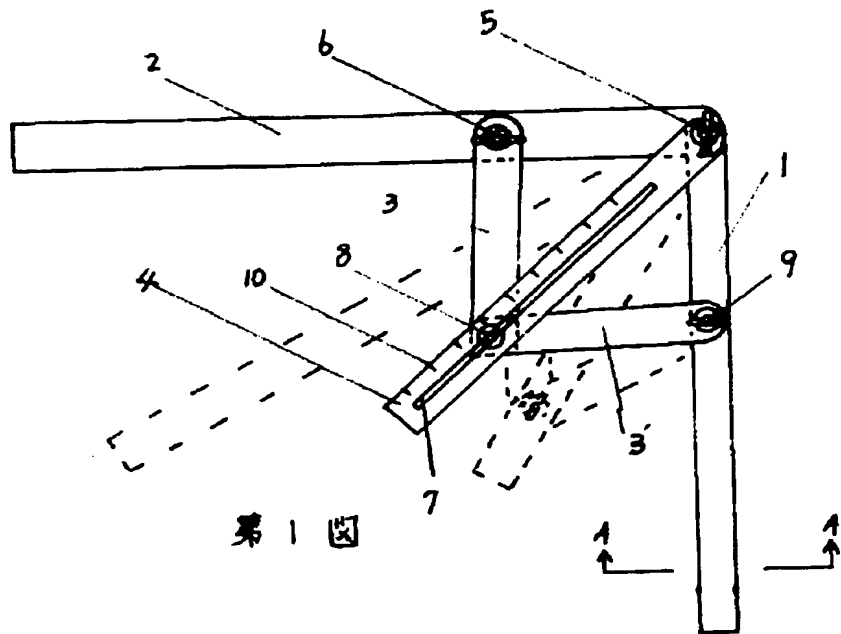
4. 図面の簡単な説明

第1図…平面図、第2図…A—A断面図、第3
図…角度測定使用態様図

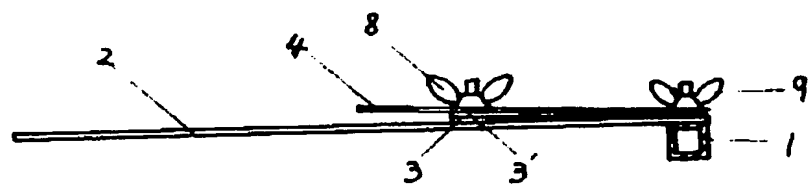
1…定着辺、2…測角辺、3, 3'…角度支持辺、
4…角度固定辺、5…蝶ネジ、6…蝶ネジ、7…
溝、8…蝶ネジ、9…蝶ネジ、10…目盛

実用新案登録出願人 上 守 人

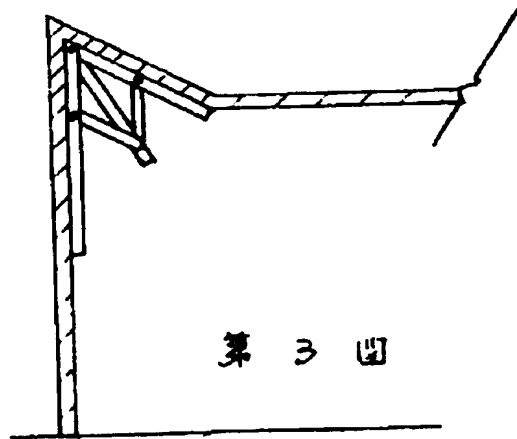




第 1 圖



第 2 圖



第 3 圖



14 586

實用新式登錄本類人
工 寄人